



病院ビューイング

スポーツの力で患者さんに「笑顔と元気と勇気」を与え、入院中に抱える不安やストレスの軽減を図り、病院スタッフと一緒にスポーツを観るという体験を共有することで、病院スタッフとの距離を縮め、信頼関係を構築する。また、病院スタッフ間のコミュニケーションを推進し、働き甲斐のある職場作りに寄与するとともに、病院ビューイングを通じて、サッカーのことやカターレ富山のことを知ってもらい関心度を高める。

- 活動場所** : 富山市立富山市民病院、富山県済生会富山病院、富山県立中央病院、富山西総合病院、黒部市民病院
- 取組テーマ** : スポーツ観戦の生きるチカラに
- 協働者** : 企業／NPO／住民／学校／クラブアカデミー／クラブダンスチーム サポーター
- 協働者名** : 富山市立富山市民病院、富山県済生会富山病院、富山県立中央病院、富山西総合病院、黒部市民病院、NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ、明治安田生命相互保険会社、富山大学、カターレ富山アカデミー、カターレ富山専属ダンスチーム

活動で工夫した点

これまでサッカーに興味がなかった患者さんに親しみをもってもらうため、選手のぼり旗の掲出、選手のプロフィール写真を用いた会場作りや、当日富山に残ったトップチームの選手、アカデミーの子どもたちを各机に配置し、患者さんとの交流を図った。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

入院している患者さんが対象のため、カターレ富山を知っている患者さんよりも知らない患者さんが多かった。また、患者さんの都合もあり、前日までにはっきりとした参加人数が分からなかったため、準備するのに手間取った。選手がくるということでサインを何にするか話し合った結果、リハビリも兼ねて患者さんにミニフラッグ等を作成してもらうなど、病院スタッフ側の事前準備も多くあった。

クラブや地域の活動後の変化

病院ビューイングに興味のある他の病院の先生が視察に来て、開催したいという病院が増えた。多くのメディアに取り上げられ、病院ビューイングの活動について地域住民の方々に知ってもらえる機会があった。



協働者の声

病院スタッフの声：患者さんだけでなく、スタッフ間でも距離が縮まって良かった。
 参加した選手の声：病院というストレスや不安が多い空間の中で、地元のチームが点を取って勝てば盛り上がり、一時的でもストレスや不安を忘れられる時間が作れると思った。もっと盛り上がりたかった。
 明治安田生命相互保険会社様の声：全国の支社から問い合わせがあるぐらい影響力のある活動である。1つの企業では成り立たない活動であるため、他方の理解・協力が大切である。
 参加している大学の声：取り組み的自体にはたくさんのメディアにおいて評価されてるが、学生自体はボランティアで参加しているだけになっている。今後は病院ビューイングにおける院内・患者さん等の効果を測定し、情報の見える化を目指す。

参加者の声

カターレが身近な存在になった。スタッフの援助もよかった。サッカー観戦を通じて周りの患者さんと接する機会が増えたり、看護師との会話も増えた。一方で、応援が耳障りに感じる時があった。点滴が真ん中にあると観戦がしにくい。という声もあった。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

病院という閉鎖的な空間をスポーツの力で明るく活気のある空間にできます。また、土日の空いている時間を有効に使い、患者さんの気分転換を！絶対に元気になります！

補足

試合前にはサポーターによる応援レクチャー、ハーフタイムには理学療法士が患者さんへ向けた体操も行っています。